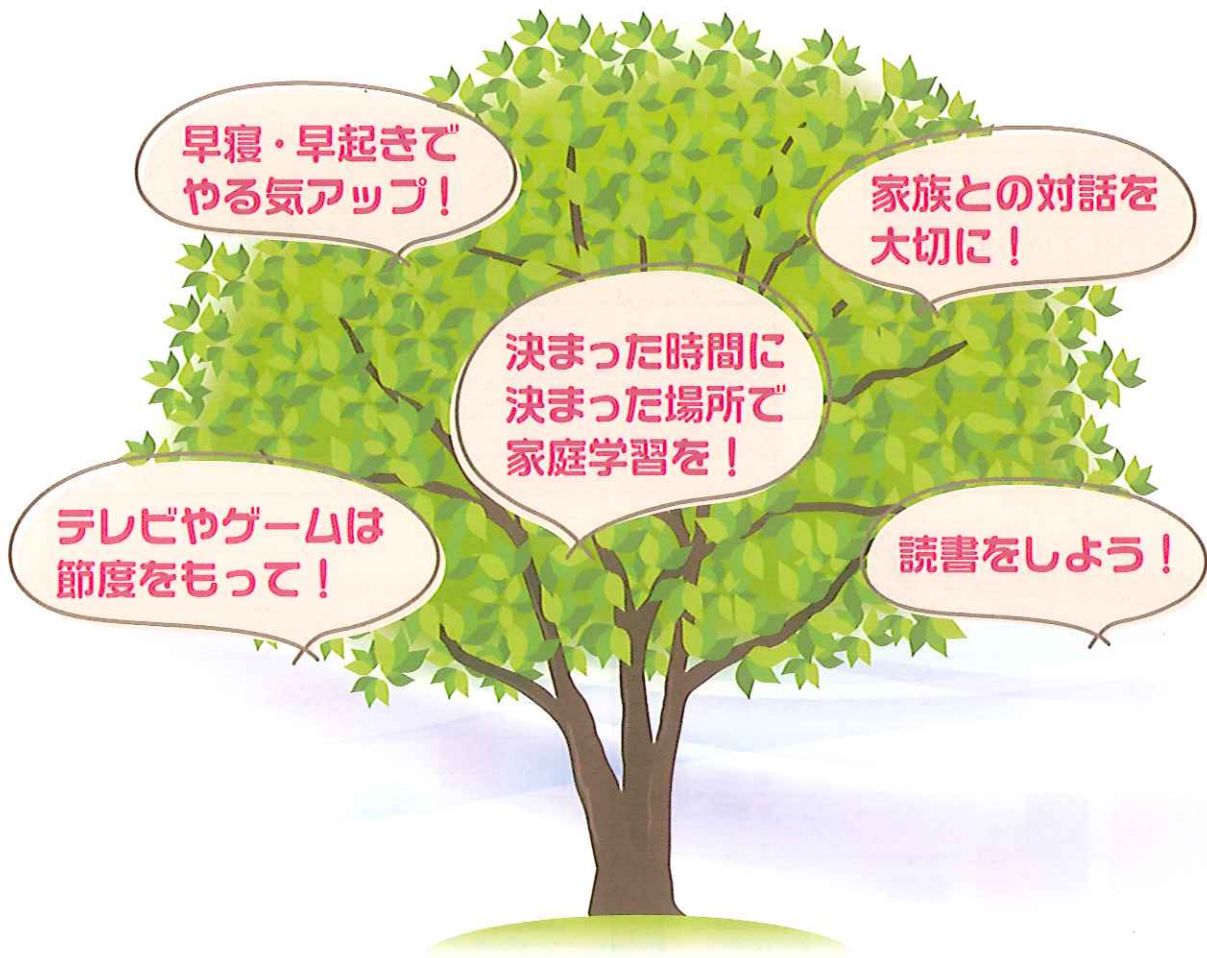


家庭で学力を育てる 5つのヒント

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から、「子どもたちの学力を育てるために、家庭で実践していただきたいこと」を5項目のヒントという形でまとめました。「できることから始めてみること」が大切です。ご家庭の事情に合わせて1つでも、2つでもかまいません。ご家庭の子育ての参考にして下さい。



平成27年11月

男鹿市教育委員会

1 早寝・早起きでやる気アップ！規則正しい生活リズムを。

全国学力・学習状況調査では「毎日同じくらいの時間に寝ている」「どちらかといえば同じくらいの時間に寝ている」と答えた子どもほど平均点が高くなりました。「寝る時間が全く決まっていない」と答えた子どもと比べて、平均点の差が小学校6年生で約17点、中学校3年生で約10点ありました。起床時間についても、下のグラフのように、同様の結果になりました。

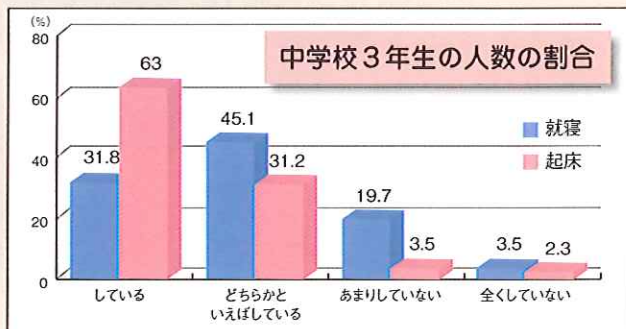
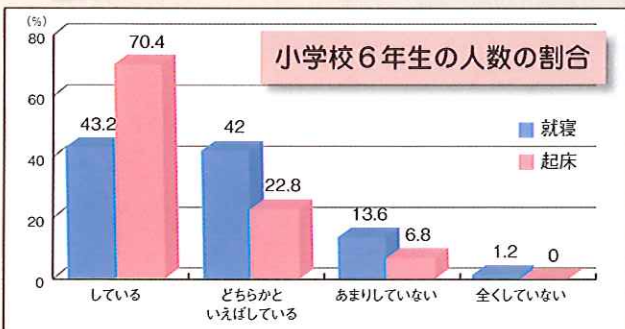
質問 毎日、同じくらいの時間に寝ていますか

小学校6年生	①～④と答えた児童の学力調査の平均点
①「している」	65.5点
②「どちらかといえばしている」	64.9点
③「あまりしていない」	58.5点
④「全くしていない」	48.9点
中学校3年生	①～④と答えた生徒の学力調査の平均点
①「している」	61.2点
②「どちらかといえばしている」	62.4点
③「あまりしていない」	58.7点
④「全くしていない」	51.5点

質問 毎日、同じくらいの時間に起きていますか

小学校6年生	①～④と答えた児童の学力調査の平均点
①「している」	64.8点
②「どちらかといえばしている」	63.7点
③「あまりしていない」	55.9点
④「全くしていない」	46.2点
中学校3年生	①～④と答えた生徒の学力調査の平均点
①「している」	61.0点
②「どちらかといえばしている」	61.5点
③「あまりしていない」	56.8点
④「全くしていない」	47.5点

男鹿市の子どもは？



男鹿市では、起床時刻は小学校6年生・中学校3年生ともに9割以上の子どもがほぼ決まっているという結果でした。しかし、就寝時刻は小学校6年生では約85%が決まっているのに対し、中学校3年生では約75%と減っています。意欲的に授業や諸活動に取り組むためには早寝・早起きなど規則正しい生活習慣が大事です。また、決められた就寝時刻や起床時刻を守るためには、帰宅してから就寝までの時間を計画的に使わなくてはならないので、見通しをもって物事に取り組む力が身に付きます。

2 テレビやゲーム、携帯電話は使用時間を決めるなど節度をもって。

全国学力・学習状況調査では、テレビやゲームの時間が長くなるほど平均点が下がる傾向にあります。携帯電話やインターネットの使用時間でも同様の結果になっています。特に顕著な差が見られたのはゲームの使用時間です。4時間以上の子どもと1時間未満の子どもでは、平均点で、小学校6年生で約18点、中学校3年生では約20点の差が見られました。

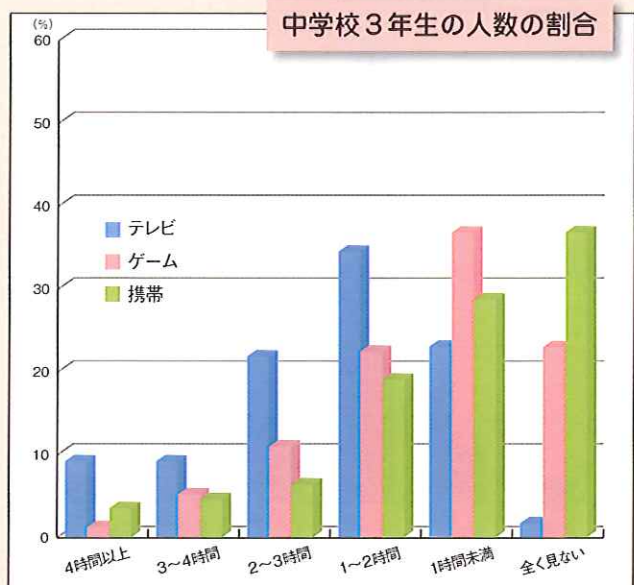
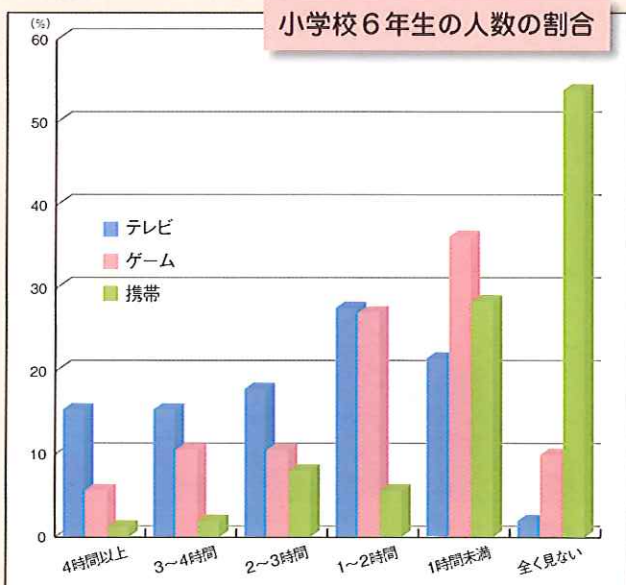
質問 平日、どれくらいの時間テレビやビデオ、DVDを見ますか

小学校6年生	①～⑥と答えた児童の学力調査の平均点	中学校3年生	①～⑥と答えた生徒の学力調査の平均点
①4時間以上	60.9点	①4時間以上	53.4点
②3～4時間	65.1点	②3～4時間	57.6点
③2～3時間	67.2点	③2～3時間	60.4点
④1～2時間	68.9点	④1～2時間	63.9点
⑤1時間未満	70.4点	⑤1時間未満	70.4点
⑥全く見ない	65.8点	⑥全く見ない	65.8点

質問 平日、どれくらいの時間ゲームをしますか

小学校6年生	①～⑥と答えた児童の学力調査の平均点	中学校3年生	①～⑥と答えた生徒の学力調査の平均点
①4時間以上	52.7点	①4時間以上	50.2点
②3～4時間	53.0点	②3～4時間	54.6点
③2～3時間	60.2点	③2～3時間	57.9点
④1～2時間	64.1点	④1～2時間	61.8点
⑤1時間未満	70.3点	⑤1時間未満	70.3点
⑥全く見ない	70.0点	⑥全く見ない	70.0点

男鹿市の子どもは？



男鹿市では、小学校6年生の3人に1人がテレビ等を平日に3時間以上見ているという結果でした。また、4人に1人はゲームを平日2時間以上やっているという結果も出ています。これは秋田県の平均よりも高い値です。中学校3年生ではテレビやゲームは減っていますが、携帯電話を平日1時間以上使用する生徒の割合が増加しています。「全く見せない」「やらせない」「持たせない」ではなく、ルールを決めて節度をもって使用させることが大切です。

3

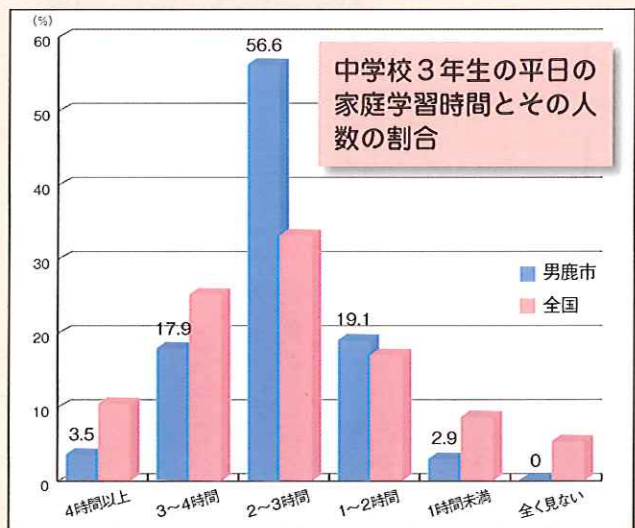
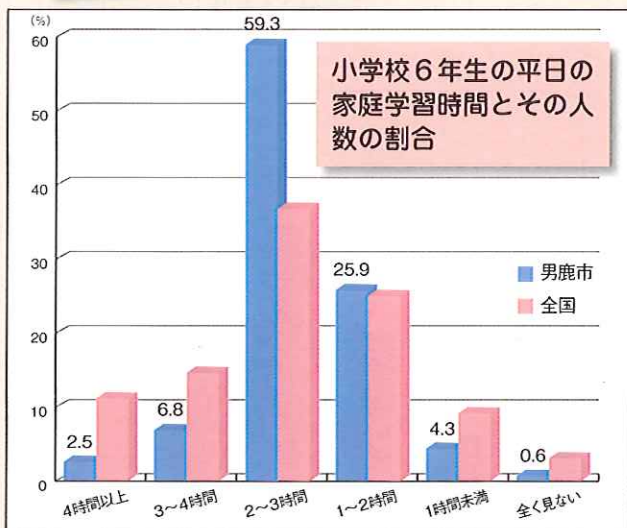
「決まった時間に決まった場所で継続的に」家庭学習の充実を。

全国学力・学習状況調査では、平日に家庭学習を3時間以上する子どもと全くしない子どもでは、平均点で約20点の差がありました。集中して授業に取り組むことはもちろんですが、授業中に分かったことも、時間がたつと曖昧になったり、忘れたりするものです。家庭で復習をする子どもほど学力が定着する傾向にあります。

質問 平日、どれくらいの時間家庭学習をしますか

小学校6年生	①～⑥と答えた児童の学力調査の平均点
①3時間以上	72.6点
②2～3時間	66.4点
③1～2時間	64.8点
④30分～1時間	60.8点
⑤30分未満	54.5点
⑥全くしない	48.2点
中学校3年生	①～⑥と答えた生徒の学力調査の平均点
①3時間以上	64.5点
②2～3時間	63.8点
③1～2時間	61.5点
④30分～1時間	58.8点
⑤30分未満	55.0点
⑥全くしない	48.5点

男鹿市の子どもは？



男鹿市では、小学校6年生・中学校3年生ともに家庭学習を「全くしない」「30分未満」という子どもの割合は全体の5%未満と少なく、毎日家庭学習をしている子どもが多いようです。しかし、家庭学習を2時間以上している子どもの割合は全国平均と比べて多いとは言えません。

家庭学習は「決まった時間に」「決まった場所で」「継続的に」実施することが大切です。家庭で、学習を始める時間や学習の場などのルールを決め、習慣化を図りましょう。

4

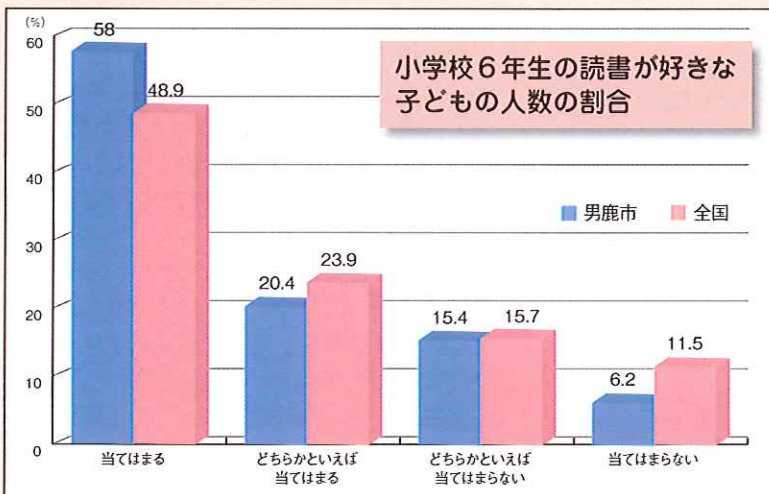
読書をしよう！読み取る力だけでなく、集中力もアップします。

全国学力・学習状況調査では、「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」と回答した子どもは、小学校6年生、中学校3年生ともに、「当てはまらない」と回答した子どもよりも平均点が約12点良い結果となりました。

質問 読書は好きですか

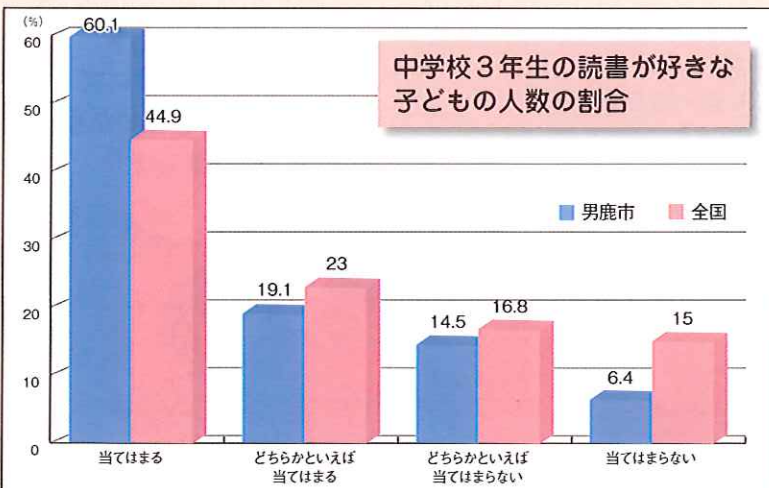
小学校6年生	①～④と答えた児童の学力調査の平均点
①当てはまる	67.3点
②どちらかといえば当てはまる	60.7点
③どちらかといえば当てはまらない	59.9点
④当てはまらない	55.0点
中学校3年生	①～④と答えた生徒の学力調査の平均点
①当てはまる	64.8点
②どちらかといえば当てはまる	60.4点
③どちらかといえば当てはまらない	57.2点
④当てはまらない	53.0点

男鹿市の子どもは？



男鹿市では、小学校6年生・中学校3年生ともに、約80%の子どもが「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答しています。読書が好きな子どもの割合が高いと言えます。読書をすることで、語彙が増えるだけでなく、文章を読み取る力や理解する力が付きます。また、読書を継続的にすることで、集中力が持続する時間が長くなるといわれています。

長い時間読書をするよりも、毎日短い時間でも読書をする習慣を付けることが大切です。



男鹿市の子どもの平日の平均読書時間

小学校6年

- 1時間以上・・・14.2%
- 30分～1時間・・・20.0%
- 10分～30分・・・37.7%
- 10分未満・・・27.8%

中学校3年

- 1時間以上・・・9.8%
- 30分～1時間・・・26.0%
- 10分～30分・・・34.7%
- 10分未満・・・17.3%

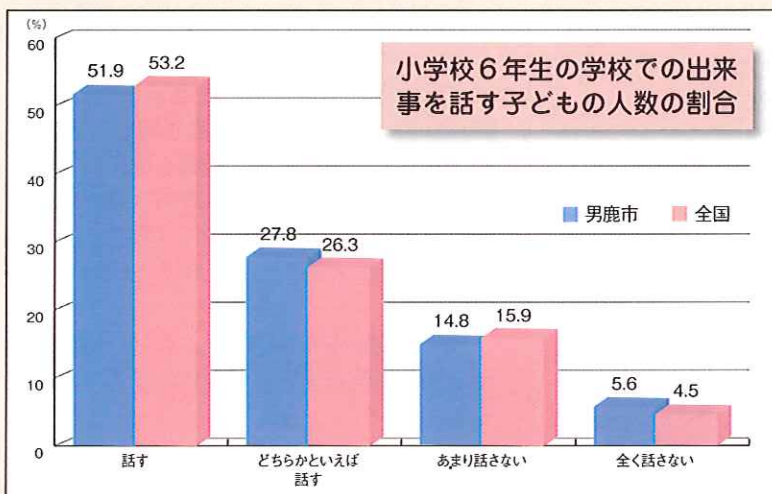
5 家族との対話を大切に！子どもの話を聞くことから始めましょう。

全国学力・学習状況調査では、小学校6年生、中学校3年生ともに、家庭で学校での出来事を話す子どもほど平均点が高いという結果になりました。「話す」と答えた子どもと「全く話さない」と答えた子どもでは平均点で約15点の差がありました。

質問 家の人と学校での出来事について話をしますか

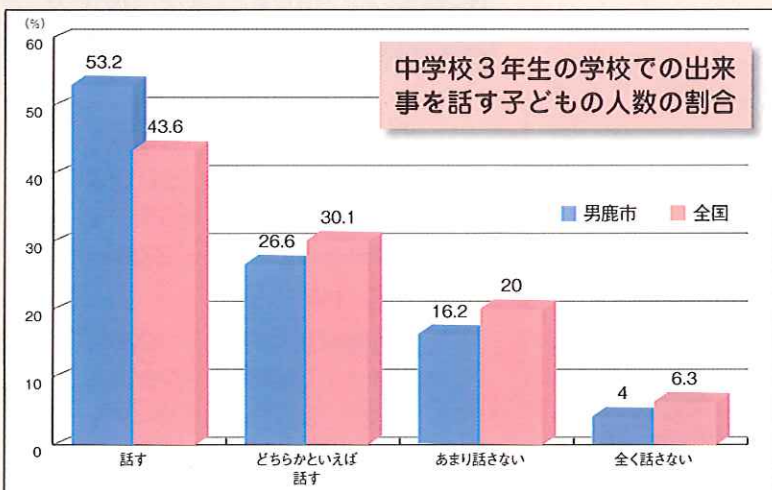
小学校6年生	①～④と答えた児童の学力調査の平均点
①話す	65.8点
②どちらかといえば話す	63.6点
③あまり話さない	58.4点
④全く話さない	51.1点
中学校3年生	①～④と答えた生徒の学力調査の平均点
①話す	64.5点
②どちらかといえば話す	62.4点
③あまり話さない	58.7点
④全く話さない	51.2点

男鹿市の子どもは？



男鹿市では、小学校6年生・中学校3年生ともに約80%の子どもが「話す・どちらかといえば話す」と回答しました。小学校6年生では全国平均と同じような人数の割合で、中学校3年生では、全国平均と比べて「話す」と回答した子どもの割合が約10%高いという結果でした。

学校での出来事を話題にしたり、子どもの話をよく聞いたりすることは子どもの心の安定につながります。それが学力向上にもつながります。まずは大人の価値観を押しつけることなく、子どもの話をじっくりと聞いて下さい。



子どもの話をじっくりと聞いて受けとめることから始めましょう

